

令和3年度上半期 基幹型及び在宅介護・地域包括支援センター事業業務報告

事業項目		事業内容	基幹型と在支・包括との業務分担	実施状況	備考
組織・運営体制	事業を適切に運営するための体制構築	市や他センターとの連携、適正な人員配置の促進など事業を適切に運営するための体制を構築	〈基幹型〉 適正な人員配置の確認 市と各在宅介護・地域包括支援センターの情報や対応の方向性を揃えるため定期的な連絡会の開催	・年度当初(4月)に、各法人が市に提出する人員配置表で、適正な人員配置を確認している。配置状況は資料7-2 1ページ参照 ・毎月第3金曜日に、市と在宅介護・地域包括支援センターにて、定期的に連絡会議を実施している。	
	職員の確保・育成	職員研修の実施、研修への参加等職員の資質の向上に向けた取組を実施	〈基幹型〉 在宅介護・地域包括支援センター職員研修として、定期的な研修会の開催企画・実施	在宅介護・地域包括支援センター職員対応力向上研修会を開催した。 第1回 令和3年4月21日(水) 参加人数51人 オンライン開催 内容:『武蔵野市高齢者福祉計画・第8期介護保険事業計画について』 第2回 令和3年5月27日(木) 参加人数51人 オンライン開催 内容:『市単独事業説明・在支包括の役割等について』 第3回 令和3年6月28日(月) 参加人数53人 オンライン開催 内容:『認知症初期集中支援事業について』 第4回 令和3年7月29日(木) 参加人数50人 オンライン開催 内容:『高齢者虐待への対応について』	
	利用者が相談しやすい相談体制の構築	夜間・休日の相談対応を実施	〈在支・包括〉 夜間・休日の相談対応	平日夜間及び休日は事務所は休みだが、電話が転送され相談対応を実施した。	
		基幹型及び在宅介護・地域包括支援センターを市民に周知	〈基幹型〉 市HP活用や配布物を利用した全市的な周知 〈在支・包括〉 主に担当エリアへ周知	〈基幹型〉 市HP、高齢者サービスの手引き及びエンディングノートにおける記載、在支・包括のチラシ等で全市的に周知している。 〈在支・包括〉 独自チラシ等で、主に担当エリアへ周知している。	

事業項目		事業内容	基幹型と在支・包括との業務分担	実施状況	備考
個人情報 の保護	個人情報保護・情報セキュリティの徹底	個人情報管理体制を構築し、個人情報を適切に管理	<基幹型> 庁内の個人情報、情報セキュリティ研修の実施 各在宅介護・地域包括支援センターの個人情報管理体制・研修の確認 <在支・包括> 各法人の個人情報、情報セキュリティに則った研修会を実施(年1回)	<基幹型> 庁内の個人情報、情報セキュリティ研修を実施した。 各在宅介護・地域包括支援センターの個人情報管理体制・セキュリティ研修を実施した。 <在支・包括> 各法人の個人情報及び情報セキュリティの規則に則って、研修会を少なくとも年1回、または、各法人の規定に則った回数、実施している。	
利用者満足 の向上	利用者満足度向上に資する相談・苦情対応体制の整備	苦情に対する対応や苦情内容の記録報告の体制を整備	<基幹型> 苦情に対する対応や苦情内容の記録報告の体制を整備 <在支・包括> 各法人の苦情相談対応の規則に従った体制整備	<基幹型> 相談記録票を利用して、記録を残した。 <在支・包括> 各法人の苦情相談対応の規則に従った体制を整備している。	
	相談者のプライバシーの確保	相談時にプライバシーに配慮した環境を確保	<基幹型> 相談時にプライバシーに配慮した環境を確保 <在支・包括> 相談時にプライバシーに配慮した環境を確保	<基幹型><在支・包括> 相談室を使用して、プライバシーに配慮した環境を確保している。	

事業項目		事業内容	基幹型と在支・包括との業務分担	実施状況	備考
総合相談 支援	地域における関係機関・関係者のネットワーク構築	地域ネットワーク構築にむけた社会資源の発見・整備	<基幹型> 全市的な関係機関や庁内における連携、ネットワークの構築 <在支・包括> 地域の社会資源の発見とネットワークの構築	・関係機関が各通常業務の中で、異変の発見、速やかな通報、相談窓口の周知等の取組みに加え、消費者被害・認知症・生活困窮者等の課題に対応するため、「武蔵野市見守り・孤立防止ネットワーク連絡協議会」を開催し、安否確認の対応報告や連携体制の強化に向けた情報交換を行っている。 ・令和2年度までは高齢者支援課が担当だったが、高齢者だけでなく様々な方が孤立しないよう見守っていく地域共生社会を推進するため、令和3年度から、それぞれの孤立防止対応は各課が行い、とりまとめる協議会運営は地域支援課が実施するとした。協議会は、コロナの影響で、昨年度は書面開催だったが、令和3年11月2日(火)、オンライン(一部は市役所会議室)で開催。警察、消防、住宅供給公社、サービス提供事業者等、関係機関から44名が参加した。 ・「武蔵野市成年後見制度利用促進基本計画」(令和2年度～)に基づき、令和2年度から「武蔵野市成年後見制度地域連携ネットワーク連絡協議会」を開催(令和3年度は7月26日)。コロナ禍での活動等について報告を行い、専門職団体、民生委員、各在宅介護・地域包括支援センター、市関係課等の連携を深めた。 ・健康福祉実務担当者調整委員会(健康福祉部及び関連部署の実務担当者間における連携に関する事項を協議)を7月28日に開催し、本市における重層的支援体制整備事業について検討した。 <基幹包括> ・食事サービス事業者との情報交換会を開催。コロナ禍における食事サービス事業者の状況の把握をし、地域の見守りにおける体制の確認をした。 令和3年12月2日(木)午後3時～午後4時 武蔵野市を配達エリアとする10事業者が参加 <在支・包括> 地域連携に係る会議に出席 資料7-2 10～12 ページ参照	※令和3年10月以降の実績含む ※令和3年10月以降の実績含む

事業項目		事業内容	基幹型と在支・包括との業務分担	実施状況	備考
総合相談支援	地域における高齢者の実態把握	要介護認定の新規申請者等の実態把握及び台帳作成 介護サービス未利用者の定期的な実態把握	〈在支・包括〉 実態把握及び台帳作成 介護サービス未利用者の定期的な実態把握	平成3年4月～令和3年9月までの在宅介護・地域包括支援センターの要介護認定調査件数 ・ゆとりえ 225 件 ・吉祥寺本町 79 件 ・高齢者総合センター 229 件 ・吉祥寺ナーシング 142 件 ・桜堤ケアハウス 215 件 ・武蔵野赤十字 123 件 在宅介護・地域包括支援センター 合計 1,013 件 ・熱中症予防シートを活用した実態把握については以下のとおり。 (内容) ひとり暮らし・高齢者のみ世帯を中心に熱中症予防シートを配布することにより、熱中症への注意を喚起し、室内での熱中症を予防する。あわせて、地域包括支援センター職員等が高齢者の実態把握訪問を行う際の手段として活用し、円滑な実態把握につなげる。 〈配布実績〉 民生児童委員 475 枚、ケアマネジャー1,200 枚、基幹型地域包括支援センター及び在宅介護・地域包括支援センター等 674 枚、市民社会福祉協議会等 53 枚 計 2,402 枚 ※配布結果についてアンケートを実施 〈配布期間〉 令和3年5月初旬から9月 30 日まで ・サービス未利用者の実態把握については資料7-4参照	

事業項目		事業内容	基幹型と在支・包括との業務分担	実施状況	備考
総合相談支援	相談事例解決のための対応	初期段階での相談対応及び継続的・専門的な相談支援	<基幹型> 庁内連携や関係機関との連携対応が必要な場合の連絡調整 <在支・包括> 在宅の方の相談支援	引き続き、相談対応については重点をおいて取り組みを実施。相談実人数、相談支援業務延べ数、相談者の区分、相談内容、訪問による相談結果については、資料7-2 2～4ページ参照。	
	家族介護者や複合的課題を有する世帯等への支援	家族介護者の相談支援 複合的な課題に対する関係機関との連携	<基幹型> 庁内連携や関係機関との連携対応が必要な場合の相談支援	・家族介護者の相談については、窓口・電話等で対応している。 ・複合的な課題については、内容に応じ、庁内の関係各課及び福祉総合相談窓口と連携している。	
権利擁護	成年後見制度活用の取り組み	市民に対する成年後見制度の利用促進	<基幹型> 武蔵野市福祉公社成年後見利用支援センターと連携して研修会の企画検討 <在支・包括> 基幹型と連携して、研修内容の検討	<基幹型><在支・包括> ・武蔵野市福祉公社成年後見利用支援センターと社会福祉士会が、月に1回情報交換の場を設けている。 ・社会福祉士会を中心に、研修の企画を検討している。	
	高齢者虐待への対応	介護サービス事業者及びケアマネジャーに対する虐待に関する研修を実施(年2回)	<基幹型> 研修会の方向性及び内容の検討、研修会の開催 <在支・包括> 基幹型と連携して、研修内容の検討、研修会の実施	<基幹型><在支・包括> ・新型コロナウイルス感染症拡大防止のため上半期は研修開催なし ・年度内に虐待に関する研修の開催を検討中	

事業項目		事業内容	基幹型と在支・包括との業務分担	実施状況	備考
権利擁護	高齢者虐待への対応	市民に対する虐待防止に関する普及啓発を実施	<基幹型> 普及啓発方法の検討 <在支・包括> 基幹型と連携して普及啓発を実施	<基幹型><在支・包括> 社会福祉士会を中心に、見守りのチラシを作成し、各在宅介護・地域包括支援センターのイベント等で普及啓発のため配布している。	
		高齢者及び障害者虐待防止連絡会議の実施(年2回)	<基幹型> ・障害者福祉課と共催で開催 ・関係各課や機関とともに、虐待防止の取り組みについて検討 <在支・包括> 会議に出席	【参加団体】 武蔵野警察署、多摩府中保健所、地域活動支援センター地域生活支援センタービーと、地域活動支援センターライフサポート MEW、地域活動センターコット、地域自立支援協議会権利擁護部会、武蔵野市福祉公社権利擁護センター、在宅介護・地域包括支援センター、武蔵野市障害者福祉センター、地域支援課、生活福祉課、高齢者支援課、障害者福祉課、健康課、子ども家庭支援センター、 第1回 令和3年7月27日(火) 書面開催	
		市民に対する見守り・孤立防止に関する普及啓発の実施(年2回)	<基幹型> ・普及啓発方法の検討 ・地域支援課主催の見守り・孤立ネットワーク連絡協議会に出席して関係機関と連携を図る <在支・包括> 会議に出席	【参加団体】 東京都住宅供給公社、都市再生機構、東京都宅地建物取引業協会武蔵野中央支部、多摩新聞販売同業組合武蔵野支部、東京ガス株式会社西部支店、東京電力パワーグリッド株式会社武蔵野支社、武蔵野市シルバー人材センター、武蔵野郵便局及び市内郵便局代表、水道部、武蔵野市居宅介護支援事業者連絡協議会、弁当宅配業者、ヤマト運輸株式会社、生活協同組合コープみらい東久留米センター、生活協同組合パルシステム東京、セブン-イレブン・ジャパン、イトーヨーカ堂、武蔵野市商店会連合会、第一生命株式会社、明治安田生命保険相互会社、東都生活協同組合、東京ハイヤー・タクシー協会武三支部、武蔵野警察署、武蔵野消防署、武蔵野市医師会、東京都武蔵野市歯科医師会、武蔵野市薬剤師会、武蔵野市柔道整復師会、武蔵野市民生児童委員協議会、武蔵野市民社会福祉協議会、在宅介護・地域包括支援センター、健康福祉部各課、防災安全部安全対策課、子ども家庭部子ども家庭支援センター担当、都市整備部住宅対策課、市民部産業振興課 ・令和3年11月2日(火)、オンライン(一部は市役所会議室)で開催。警察、消防、住宅供給公社、サービス提供事業者等、関係機関から44名が参加した。	※令和3年10月以降の実績含む

事業項目		事業内容	基幹型と在支・包括との業務分担	実施状況	備考
権利擁護	消費者被害防止の取り組み	・消費者被害防止、防犯対策を目的とした庁内及び関係機関の連携強化連携会議 ・消費生活センターとの連携	〈基幹型〉 会議内容について関係課と調整等。連絡協議会へ出席。 消費生活センター主催連携会議出席 〈在支・包括〉 ネットワークを活用した個別支援	〈基幹型〉 今後、協議会の開催時には、関係課と会議内容について調整等を行い、出席する。 〈在支・包括〉 警察からの情報提供を活用し、消費者被害についての注意喚起を、個別に実施している。	
	人生最期等の過ごし方に対する自己決定支援	エンディング(終活)支援	〈基幹型〉 普及啓発方法の検討 〈在支・包括〉 基幹型と連携して普及啓発の実施	令和3年8月に武蔵野市福祉公社の協力のもと武蔵野市版のエンディングノートを作成し、配布を開始した(令和3年9月末時点の配布数:445冊)。出前講座については、令和2年度に引き続き緊急事態宣言中は原則休止としている。 (令和3年9月末時点の実施数:3回 参加者数:58人)	
包括的・継続的ケアマネジメント支援	介護支援専門員支援体制の構築	主任介護支援専門員研修会開催(年1回)	〈基幹型〉 研修企画・開催	○第1回武蔵野市主任介護支援専門員研修 目的:居宅介護支援事業所に所属する主任介護支援専門員の役割としてスーパーバイズができる 日時:令和3年8月3日(火)午後6時～午後8時 令和3年8月18日(水)午後6時～午後8時 方法:感染症予防対策のためオンラインに変更し開催 テーマ:「スーパーバイズの視点を学び実践するには」 講師:日本ケアマネジメント学会 相田里香氏 参加者:48名 ○第2回武蔵野市主任介護支援専門員研修 目的:ケアマネジメントの実践からその実践知の分析、体系化された手法である適切なケアマネジメント手法(脳血管疾患の事例)について学ぶ 日時:令和3年10月28日(木)午後1時30分から午後4時30分まで 方法:オンライン	※令和3年10月以降の実績含む

事業項目		事業内容	基幹型と在支・包括との業務分担	実施状況	備考
包括的・継続的ケアマネジメント支援	介護支援専門員支援体制の構築			テーマ:「適切なケアマネジメント手法(脳血管疾患)の研修会及びAIを活用したケアプラン提案に関する意見交換会 講師:一般社団法人 長寿社会開発センター 遠藤征也氏 国際医療福祉大学大学院 医療福祉経営専攻 教授 石山麗子氏 参加者:36名	
		介護支援専門員研修会開催(年1回)	〈基幹型〉 研修企画・開催	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、大規模な研修の実施は中止とした。	
	介護支援専門員に対する相談対応	困難事例に対する相談支援	〈基幹型〉 課題解決のため、多機関と連携・調整 〈在支・包括〉 ケアマネジャーと連携した個別支援	〈基幹型〉 庁内関係各課、多機関等との連携や調整を行い、在宅介護・地域包括支援センターが行うケアマネジャー支援がより円滑に進められるよう体制づくりを行う。 〈在支・包括〉 ケアマネジャーが担当する個別事例について相談を受けるだけではなく具体的な支援も行っている。	
地域ケア会議	個別課題や地域課題解決のための、関係者との連携による地域ケア会議の開催	ケアプラン指導研修の実施(年12回 個別ケース約120件)	〈基幹型〉 会議・研修の運営 〈在支・包括〉 委員として出席	介護支援専門員から提出されたケアプランをもとに基幹型地域包括支援センター、在宅介護・地域包括支援センターの主任介護支援専門員等、武蔵野市住宅改修・福祉用具相談支援センターに所属する専門職(PT、OT、ST、排泄ケア専門員)、基幹相談支援センター(障害者福祉課)、保険者等により「ケアマネジメントの質の向上」を目的とした会議を開催。会議の結果を事例提出者へ在宅介護・地域包括支援センターの主任介護支援専門員が面接で伝える。 第1回令和3年4月27日(水) 事例数 8 第2回令和3年5月26日(水) 〃 9 第3回令和3年6月16日(水) 〃 10 第4回令和3年7月14日(水) 〃 13(書面開催) 第5回令和3年8月4日(水) 〃 3(書面開催) 令和3年8月26日(木) 〃 3 第6回令和3年9月6日(水) 〃 9(書面開催) 合計 55 事例(ケアマネジャー44名)	

事業項目		事業内容	基幹型と在支・包括との業務分担	実施状況	備考
地域ケア会議	個別課題や地域課題解決のための、関係者との連携による地域ケア会議の開催			ケアプラン研修フォローアップ研修 目的: ケアマネジメントの基礎を確認し実践に活かすことができる。 日時: 令和3年7月28日(水) 午後6時から午後8時まで 18名(対面による研修) 令和3年8月19日(木) 午後6時から午後8時まで 46名(オンライン) 方法: 感染症予防対策のため同内容を2回にわけて対面による研修で開催予定だったが緊急事態宣言期間中のため、2回目はオンラインに変更して開催 テーマ: 「介護保険最新情報vol958の内容を再確認しケアマネジメントプロセスからケアプラン作成についてグループ形式で学ぶ」 講師: 厚生労働省老健局認知症施策・地域介護推進課 原 雄亮係長	
		地区別ケース検討会における事例検討の実施(年30回 センターごとに年5回)	<基幹型> 地区別ケース検討会の開催支援 <在支・包括> 地区別ケース検討会の開催	ゆとりえ(東部第1) ① 令和3年5月27日(木) オンライン開催 事例検討『勝ち気で寂しがりやYさんの良さを周囲に知ってもらいたい。～認知力の低下した独居女性への支援～』 ② 令和3年6月17日(木) オンライン開催 事例検討『支援の提案に対して拒否ある方への効果的なアプローチ』 ③ 令和3年7月15日(木) オンライン開催 事例検討『家族の意向と本人の要望がかみ合わない高齢夫婦へのアプローチ』 ④ 令和3年8月19日(木) オンライン開催 事例検討『認知症高齢女性の意向と必要性のギャップに悩む～その人らしい生活を支えるために～』 ⑤ 令和3年9月16日(木) オンライン開催 事例検討『几帳面でこだわりがある高齢者に対するアプローチの仕方』	

事業項目		事業内容	基幹型と在支・包括との業務分担	実施状況	備考
地域ケア会議	個別課題や地域課題解決のための、関係者との連携による地域ケア会議の開催	地区別ケース検討会における事例検討の実施（年30回 センターごとに年5回）	<基幹型> 地区別ケース検討会の開催支援 <在支・包括> 地区別ケース検討会の開催	吉祥寺本町（東部第2） ① 令和3年6月 16 日（水） オンライン開催 事例検討『雇い主が主介護者の支援の難しさ』 ② 令和3年7月 21 日（水） オンライン開催 事例検討『意味性認知症の利用者を今後どのように支援していくか』 ③ 令和3年8月 18 日（水） オンライン開催 事例検討『複数の問題を抱えた御本人と御家族がそれぞれに自立した生活を送る為に必要な支援について』	
				高齢者総合センター（中央第1） ① 令和3年6月 18 日（金） オンライン開催 事例検討 A『現在の体の状態について本人の認識と周りから見た状態について違いがある利用者への支援について』 事例検討 B『徐々に整理整頓が出来なくなってきて、ゴミが溜まってしまっている。閉じこもり傾向もあり。今後のサービスと関わり方について』 ② 令和3年7月 16 日（金） オンライン開催 事例検討 A『人恋しさから、昼夜問わず緊急用のコールボタンを何度も押してしまう方への対応について』 事例検討 B『精神疾患のある身寄りのない生活保護受給者の生活を支える』 ③ 令和3年9月 17 日（金） オンライン開催 事例検討 A『お気持ちが不安定なのか？自分の思いを一方的に訴える方への支援について』 事例検討 B『ADL向上によりサービスを削りたいケース。見直す視点とは』	
				吉祥寺ナーシングホーム（中央第2） ① 令和3年4月 15 日（木） 事例検討『リハビリが必要だと考えるけれど、本人にはその意欲はない。どうやって勧める？勧めなくていい？』	

事業項目		事業内容	基幹型と在支・包括との業務分担	実施状況	備考
地域ケア会議	個別課題や地域課題解決のための、関係者との連携による地域ケア会議の開催	地区別ケース検討会における事例検討の実施（年30回 センターごとに年5回）	<基幹型> 地区別ケース検討会の開催支援 <在支・包括> 地区別ケース検討会の開催	② 令和3年5月13日（木）オンライン開催 事例検討『長女が理想していることと本人の生活のペースが合わない』 ③ 令和3年6月10日（木）オンライン開催 事例検討『本人の主張が強く、家族が必要だと考えているサービスの利用ができないケース』 ④ 令和3年7月8日（木） 事例検討『精神疾患のある身寄りのない生活保護受給者の生活を支える』 ⑤ 令和3年9月17日（木）オンライン開催 事例検討『ADL向上によりサービスを削りたいケース。見直す視点とは』 <u>桜堤ケアハウス（西部第1）</u> ① 令和2年9月21日（火）オンライン開催 事例検討『本人の思いやこだわりが強い、独居高齢者の支援』 <u>武蔵野赤十字（西部第2）</u> ① 令和3年6月17日（木）オンライン開催 事例検討『「生きることは食べること」あきらめない家族への食支援』 ② 令和3年9月16日（木）オンライン開催 事例検討『全失語の方との支援を円滑にするために』	
		個別地域ケア会議の開催（年18回 センターごとに年3回）	<基幹型> 開催内容の検討・整理 <在支・包括> 会議開催	資料7-3 2～4ページ参照	
		エリア別地域ケア会議の開催（年6回 センターごとに年1回）	<基幹型> 開催支援 <在支・包括> 会議開催	資料7-3 5ページ参照	

事業項目		事業内容	基幹型と在支・包括との業務分担	実施状況	備考
地域ケア会議		全市的地域ケア会議への出席 (年1回)	<基幹型> 会議内容について関係各課・関係機関と調整等 <在支・包括> 会議に出席	武蔵野市在宅医療・介護連携推進協議会 多職種連携推進・研修部会 研修会を開催 日 時:令和3年8月 25 日(水)午後7時 30 分から9時まで 場 所:オンライン (事務局:武蔵野市役所 812 会議室) 講 師:西田伸一氏(東京都医師会理事 調布市医師会会長) 内 容:「新型コロナウイルス感染症における自宅療養支援と在宅医療介護連携」 参加者:各事業所連絡会及び三師会より参加希望者 計 198 アカウント 291 名	
	個別事例や地域課題解決に向けた地域ケア会議の活用	個別地域ケア会議及びエリア別地域ケア会議における記録の作成および状況確認	<基幹型> 計画・報告様式を作成 在支・包括に情報提供 <在支・包括> 計画書、会議録等の作成。事例検討後3か月を目途に状況確認	・在宅介護・地域包括支援センターは、地域ケア会議4週間前を目処に地域ケア会議計画書を基幹地域包括支援センターに提出する。 ・提出された計画書をもとに支援の方向性や会議の進行等について、基幹型地域包括支援センターと在宅介護・地域包括支援センターで打合せを行う。 ・会議開催後は2週間以内に議事録作成し、基幹型地域包括支援センターに提出。地域ケア会議開催後3か月を目処に状況を確認。	
介護予防ケアマネジメント	介護予防ケアマネジメント・介護予防支援の取組	要支援認定者・総合事業対象者のサービスの質の担保 ・介護予防個別検討会議の実施(サービス利用全ケース)	<基幹型> ・サービス利用の要支援認定者・総合事業対象者全員の介護サービスプランの検討 ・介護予防ケアマネジメント・介護予防支援の委託事業所の支援	ケアプラン作成件数等については資料7-2 8ページを参照	
在宅医療・介護連携	在宅医療・介護連携に向けた取組	「脳卒中地域連携パス」等多職種連携ツールの検証や活用する方策の検討	<基幹型> 地域支援課と連携して方策を検討 <在支・包括> 基幹型と連携して方策を検討	脳卒中地域連携パス運用実績 65件(令和3年9月末現在)	

事業項目		事業内容	基幹型と在支・包括との業務分担	実施状況	備考
在宅医療・介護連携	在宅医療・介護連携に向けた取組	在宅医療介護連携支援室と協働した医療介護連携の取組推進	<基幹型> ・在宅医療介護連携支援室と連携・調整し、相談に対応 ・在宅医療介護連携推進協議会に出席 <在支・包括> 医療介護連携に関する相談機能を強化	武蔵野市在宅医療介護連携支援室(平成 27 年7月に武蔵野市医師会内に開設)の活動実績 ・相談件数:85 件(令和3年9月末現在) 相談内容:在宅療養調整 27 件、入院入所調整8件、退院支援3件、転院支援1件、COVID19 件、MCS 8件、その他 19 件 相談元:医療機関 21 件、基幹型及び在宅介護・地域包括支援センター14 件、ケアマネジャー31 件、通所系1件、訪問看護6件、施設系1件、訪問介護0件、その他 10 件 ・訪問件数:158 件(令和3年9月末現在) 訪問先:医療機関 14 件、ケアマネジャー8件、基幹型及び在宅介護・地域包括支援センター35 件、通所系0件、訪問看護3件、有料老人ホーム7件、施設系1件、訪問介護0件、他区市連携支援室0件、その他0件、ワクチン接種会場 90 件	
		入退院時支援・在宅医療介護連携の調整	<基幹型> ・医師会・地域支援課・関係機関と連携・調整 ・地域支援課主催の入退院支援連携部会に出席 <在支・包括> ・連携・相談の強化 ・個別事例の支援	・武蔵野市在宅医療・介護連携推進協議会の入退院支援部会の部会員として参加。「入院時の情報連携シートの活用」の活用状況について確認。 また、コロナ禍における入退院時の支援について、医療・介護それぞれの立場から意見交換を行った。	
		摂食嚥下支援体制の整備・推進	<基幹型> 歯科医師会・地域支援課・関係機関と連携・調整 <在支・包括> 個別事例の支援	・市内通所介護事業所利用者の口腔機能低下防止に向けた課題の抽出と解決手法の検討を行い、通所介護事業所における摂食嚥下支援に対する意識の醸成を目的とした動画を作成する予定。	

事業項目		事業内容	基幹型と在支・包括との業務分担	実施状況	備考
認知症 高齢者支援	認知症高齢者支援の取り組み	認知症コーディネーター（認知症地域支援推進員）の配置による認知症連携の強化	〈基幹型〉 武蔵野赤十字病院や医師会と連携した認知症初期集中支援チームの支援により、適切な医療・介護につなぐ。 〈在支・包括〉 認知症初期集中支援チーム等の仕組みを活用し、認知症の早期発見・早期対応に取り組む。	・認知症コーディネーター（認知症地域支援推進員）を市内6か所の在宅介護・地域包括支援センターに配置 ・保健師等連絡会議（旧認知症コーディネーター会議） 在宅介護・地域包括支援センターの保健師による会議を定期的に行い、認知症、フレイル予防等に関する地域づくりや支援体制の整備について情報共有及び協議を行う。例年隔月開催としていたが、フレイル予防事業の進捗状況等より緊密な情報共有を図るため、本年6月以降は毎月実施。 ※今年度は新型コロナウイルス感染症により7～9月はオンラインにて開催した。 ・認知症アウトリーチチーム 該当ケースなし（初期集中支援事業により、医療機関への連絡調整、受診手配、かかりつけ医との連携等を行い対応したため。） ・認知症初期集中支援事業 新規実施7件（全事例において、チーム支援検討会議にてチーム支援適応の有無を確認） ・認知症サポーターステップアップ講座の企画・運営、認知症相談への同席による適時適切な関係機関との連携などを実施。	
		在宅医療・介護連携推進協議会の認知症連携部会の運営支援（年3回）	〈基幹型〉 会議開催 〈在支・包括〉 会議に出席	・医師会、認知症疾患医療センター等の医療関係者と、居宅介護支援事業者、通所介護事業者等介護事業所関係者、在宅介護・地域包括支援センター職員、行政職員などで構成。 ・認知症高齢者支援のための在宅医療・介護連携体制の構築・推進に関する事項のうち、主として以下の事項について検討することを目的とし、年2～3回程度開催。 ○第1回部会：令和3年6月29日オンライン開催 部会員16名出席 「認知症支援における医療・介護連携上の課題や、課題解決のための取り組み」をテーマとした意見交換、認知症疾患医療センターの役割に関する同センター所属の部会員からの説明に続き、今年度の取り組み方針について意見交換を行った。	

事業項目		事業内容	基幹型と在支・包括との業務分担	実施状況	備考
認知症 高齢者支 援	認知症高齢 者支援の取 組み			○第2回部会:令和3年 11 月 25 日オンライン開催 部会員 16 名出席 第 1 回部会での議論を踏まえ 1 月に開催することとなった、認知症連携部 会と多職種連携推進・研修部会との協同による研修会の概要と部会員の役割 分担について説明のうえ、仕事や趣味活動などを通じた認知症高齢者の在宅 生活の支援などに関し意見交換を行った。	※ 令 和 3 年 10 月以 降の実績 含む
		もの忘れ相談 シートの活用促 進	〈基幹型〉 シートの活用・周知等 〈在支・包括〉 認知症相談や認知症 症状で医療機関に受 診する際に、シートを積 極的に活用	○もの忘れ相談シート活用件数ー合計 32 件活用 認知症相談-19 件(在支・包括実施分)、6月疾患医療センターによる相談 会ー5件、9月休日相談会(中止) 、電話相談会ー8件 ※新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、昨年度に引き続き例年9 月の認知症を知る月間中に行う医師会による休日相談会は中止とし、認知症 予防財団の専門相談員による電話相談を4日間実施した。	
		認知症相談事 業の実施	〈基幹型〉 ・認知症専門相談員に よる相談会の開催 ・医師による相談会の 開催 〈在支・包括〉 相談に同席し、助言を 行う。	・月3回、市役所または在宅介護・地域包括支援センターを会場にした認知症 予防財団相談員による認知症相談を実施。令和2年6月より新型コロナウイルス 感染症拡大防止のため電話相談も可として実施。 相談件数:19 件 ・医師会と協働した認知症相談の実施 9月の「認知症を知る月間」における医師会の医師(もの忘れ相談医)による 休日相談会は新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点より中止。 令和4年3月 27 日(日)にもの忘れ相談医による休日相談会を開催予定。 ・認知症疾患医療センターと協働した認知症相談の実施 令和3年6月 25 日(金)に認知症疾患医療センターによる無料相談会を開 催。 相談件数:5件	

事業項目		事業内容	基幹型と在支・包括との業務分担	実施状況	備考
認知症 高齢者支 援	認知症高齢 者支援の取 組み	認知症初期集 中支援チームの 運用	<基幹型> 認知症初期集中支援 チームの支援及び評価 <在支・包括> 認知症初期集中支援 チームの運用	・令和3年度新規7件実施 本人・家族、かかりつけ医、認知症サポート医、武蔵野赤十字病院認知症 疾患医療センター相談員、基幹型、在支・地域包括支援センター等がチーム となり認知症の方々の課題解決のため取組を行った。	
		認知症に関する 普及・啓発	<基幹型> ・認知症サポーター養成講座等普及啓発方 法の検討 ・チームオレンジの活動 について検討 <在支・包括> 基幹型と連携して普及 啓発を実施	・認知症サポーター養成講座の実施 講座開催数:16回(内:定例実施5回) 延受講者数:183名 ※ 新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点より、5月に予定していた一般 向け講座は6月に延期のうえオンライン講座として実施、8月に予定していた一 般向け講座についてもオンライン講座として実施。 ・認知症サポーターステップアップ講座の実施(連続講座) 令和3年度は昨年度同様に新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から 内容を精査し、例年5回の連続講座とするところ3回にして開催。 第1回『具体的な事例を通して、認知症の方への接し方を学ぼう』 開催日 令和3年9月27日(月) 講 師 公益財団法人武蔵野市福祉公社 高齢者総合センター兼北 町高齢者センター所長 方波見 美穂 氏 受講者 35名 ※ オンライン(Zoom)による講座とし、サテライト会場(3箇所)を設置 第2回『認知症の方への声掛けを練習してみよう』 開催日 令和3年10月20日(水) 講 師 日本社会事業大学教授 下垣 光 氏 会 場 武蔵野スイングホールスカイルーム/境南ふれあい広場 受講者 29名	※令和3 年10月以 降の実績 含む

事業項目		事業内容	基幹型と在支・包括との業務分担	実施状況	備考
				第3回『認知症の方の気持ちを知らう』 開催日 令和3年11月24日(水) 講 師 多摩若年性認知症総合支援センター 伊藤 耕介氏 他若年性認知症当事者2名 会 場 武蔵野スイングホール 受講者 29名 ・地域認知症講座の実施 例年、コミセンにて開催しているが、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から中断中。「認知症を知る月間」期間中に Zoom によるオンライン講座として開催。サテライト会場を3か所設置し、計 133 名受講 講師: 繁田雅弘氏(東京慈恵会医科大学精神医学講座教授)	
生活支援体制整備	生活支援コーディネーターや協議体と連携した取り組み	生活支援コーディネーターを中心とした地域の自主的な取組の支援 地域住民が自主的に運営する多様な通いの場を支援	<基幹型> 地域の関係機関や団体との連携 <在支・包括> いきいきサロン等の社会資源の立ち上げ支援、事業の継続支援	・通いの場(テンミリオンハウス、いきいきサロン、健康やわら体操、不老体操、地域健康クラブ)への参加者実人数(上半期) テンミリオンハウス 656 人(登録者数)、いきいきサロン 349 人(登録者数) 健康やわら体操 84 人、不老体操 339 人、地域健康クラブ 1,056 人 計 2,484 人 ・いきいきサロン感染症対策ガイドの第2版を作成し、いきいきサロンへ配布した。 ・生活支援コーディネーターの活動実績は資料5のとおり	
		生活支援サービス整備に関する定期的な情報共有や連携強化等のための協議体と連携	<基幹型> ・生活支援コーディネーター連携会議の開催 ・地域包括ケア推進協議会への報告	・地域包括ケア推進協議会(第1層協議体)を令和3年6月18日(金)に開催(WEB 併用)。	

事業項目		事業内容	基幹型と在支・包括との業務分担	実施状況	備考
		・第1層(市全域レベル)「地域包括ケア推進協議会」を協議体として位置付け ・第2層(日常生活圏域レベル)の協議体は既存の会議等を活用	〈在支・包括〉 ・生活支援コーディネーター連携会議に出席 ・各地域での協議会への参加	・生活支援コーディネーター連携会議 第1層及び第2層の生活支援コーディネーターによる会議を定期的を開催し、地域の自主的な取り組みや、生活支援コーディネーターの活動を通しての地域課題等についての情報共有、検討を行った。 上半期は5月・7月(WEB開催)・9月(WEB開催)に実施。	
一般介護予防	介護予防推進にむけた取り組み	フレイル予防・介護予防の取り組みを推進	〈基幹型〉 健康寿命延伸のためにフレイル予防・介護予防事業の企画、実施 〈在支・包括〉 基幹型と連携して、フレイル予防・介護予防事業を実施	資料7-2 13 ページ参照	
		介護予防事業連絡調整会議の開催(年1回)	〈基幹型〉 フレイル予防・介護予防のきっかけづくりや実際の取り組みについて、庁内介護予防事業関連部署、団体と検討、実施	・高齢者総合センター(社会活動センター)、健康づくり事業団(健康づくり支援センター)、健康課、生涯学習スポーツ課、高齢者支援課の担当職員による介護予防事業連絡調整会議担当者会議の実施。 ・第1回 令和3年9月15日(水)開催 介護予防・健康づくり事業についての情報交換と周知方法を検討。	
指定介護予防支援		・介護保険における予防給付等の対象となる要	〈基幹型〉 ・指定介護予防支援事業所として、契約・サー	介護予防マネジメント(事業対象者)および介護予防サービスの利用者のサービス担当者会議に出席し、介護予防等に関する助言や提案を行った。	

事業項目	事業内容	基幹型と在支・包括との業務分担	実施状況	備考
指定介護予防支援	支援者への介護予防サービス計画の作成及び関係機関との連絡調整 ・介護保険制度の適切な運営による自立支援・重度化防止の推進	ビス担当者会議への出席・給付管理業務を実施 ・軽度者（要支援1・2、総合事業対象者）のサービス担当者会議全件に立ち合い、サービスの質の担保を図る 〈在支・包括〉 指定居宅介護支援事業所として受託	ケアマネジャーによる、自立支援に資するケアマネジメントが提供されるよう、毎週1回基幹型包括で介護予防検討会議を実施。上半期は18回208件の検討を行った。	
	災害時避難行動支援体制の推進	〈基幹型〉 介護予防支援事業所としての業務継続計画の見直し、作成	感染症や自然災害が発生した場合であっても、介護サービスが安定的・継続的に提供されることが重要である。直営だけではなく委託先との連携もふまえ、業務継続計画を見直し、作成を行っている。	
感染症対策予防	感染症対策予防の推進	〈基幹型〉 庁内関係部署と連携を図り、感染対策予防等の普及啓発及び実施	保険者が行う居宅介護支援事業者や訪問介護事業者を対象とした感染症対策研修（防護服着脱実習）に、基幹型地域包括支援センター及び在宅介護・地域包括支援センターの保健師を講師として派遣した。	